

わかりやすい！島根県の埋蔵文化財情報が満載！

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん

No.62

まいぶんくん



水田面の足跡

水田面からは人の足跡とともに動物の足跡もたくさん見つかりました。蹄（ひづめ）が2つに割れていることから牛と考えられ、農作業に牛が用いられた様子がうかがえます（写真は足跡に石こうを入れているところです）。



江戸時代初め頃の水田跡を発見

● 森原神田川遺跡（江津市松川町）

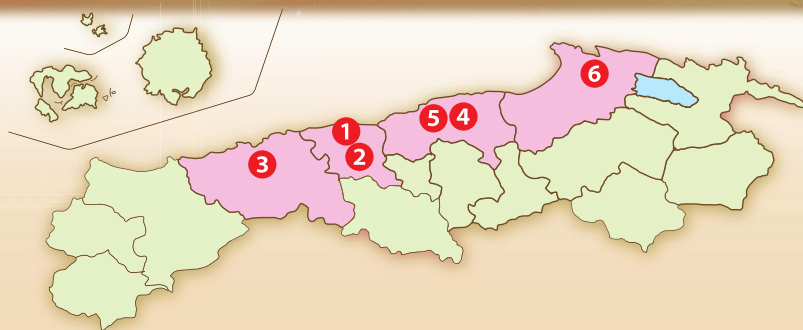
江の川河川改修事業に伴い5月から発掘調査を行っています。遺跡は江の川下流部の右岸沿いにあり、現在の水田面を約1.5m掘り下げたところ、江戸時代初め頃（17世紀前半）とみられる水田跡が見つかりました。

水田跡は少なくとも3時期の面があり、東西方向に平行してのびる2条の畦（あぜ）によって区画されています。水田跡の全体の規模は不明ですが、畦間の幅は約18mで、水田の形状は長方形と考えられます。水田跡の西側には水路跡とみられる溝状遺構も確認できました。

また、水田は江の川が運んだ土砂によって形成された自然堤防を開墾して造られており、この時期に周辺で大規模な新田開発が行われたと考えられます。もともと砂地だったところをどのようにして水田に造り替えたのか、今後の調査で明らかにしていきます。



発掘調査 ガイド



数十万年前～ 約12000年前～ 紀元前5世紀～ 3世紀～ 7世紀～ 710～ 794～ 1192～ 1338～ 1573～ 1603～
旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 南北朝時代 室町時代 安土桃山時代 江戸時代
⑤ ④ ② ③ ⑥ ①

●発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所があります。事故などのおそれがありますので、くれぐれも無断で立ち入ることがないようお願いします。
■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

江の川下流域の中世遺跡

② 田渕遺跡 (江津市川平町)

江の川河川改修事業に伴い、5月から発掘調査を行っています。遺跡は江の川と支流の奥谷川が合流する地点にあります。この場所は江の川が増水すると奥谷川が逆流し、洪水被害をもたらしてきた地域です。遺跡の調査でも、深く堆積した土層の境目に川砂が何層もみられることから、たびたび冠水をしてきたことがうかがわれます。

遺跡では、12～13世紀頃に堆積した土層に伴って、ほぼ東西方向に一直線に並んだ柱穴群が出土しました。柵や塀などの痕跡と考えられます。

また、皿や坏などが集中して見つかり、まつりなどの宴で使用されたのち、一括廃棄されたもののようです。遺跡内からは、中国の同安窯や龍泉窯などで作られた青磁碗や青白磁の合子などの高価な輸入陶磁器が比較的多く出土しており、近隣に有力者の屋敷や寺などが存在した可能性もあります。江の川を挟んだ右岸には、13世紀終わりに川上氏が築城したとされる松山城跡がありますが、それ以前からこの地に有力者が住んでいたと思われます。



廃棄された皿と坏



東西方向のビット群

豊富な木製品が出土する低湿地遺跡

③ 角落し遺跡 (浜田市三隅町)

一般国道9号(三隅益田道路)建設に伴い、調査を実施しています。浜田市三隅町古市場の谷間にある低湿地遺跡です。水田の床土にパックされた状態で保存されていたため、木製品が多数見つかりました。古い層から見つかった木製品の多くは、壁材や床材などの建築部材ではないかと考えられます。いっしょに出土する土器などから、古墳時代の前半のものと考えられます。

鎌倉時代の層から見つかった木製品の中には、水田に入って作業するための「田下駄」など農具が多くありました。また水田に関連する遺構として水路の形を保ったまま残っていた「木樋」や、列状に並んでいた板材や杭なども見つかりました。木製品の加工技術や、中世の水田開発のようすがわかる貴重な資料が得られました。



大量に見つかった木製品(古墳時代)



水路の跡(鎌倉時代)

平安時代の生活空間

おのうえいせき

④ 尾ノ上遺跡 (大田市鳥井町)

一般国道9号(大田静間道路)の建設に伴って、7月から発掘調査を行っています。遺跡は大田市鳥井町鳥越に所在し、100mほど東の御堂谷遺跡と同じ丘陵上にあります。

標高30mの南東方向に開けた斜面から、箱式石棺と平安時代(9世紀)ごろの建物跡、そこで使われていた遺物が出土しました。建物は地面に穴を掘って柱を建てる掘立柱建物で、全体の規模は不明です。遺物は、須恵器蓋坏(食器)、土師器甕壺類(煮炊き、貯蔵)、移動式かまど(土製品)や石組みなどの生活用品が、ひとつおりの出土しており、当時の生活の様子を知る貴重な資料です。今後、下層にある弥生時代の遺構・遺物を調査していきます。



須恵器蓋坏



箱式石棺



遺跡全景



弥生時代の高地性集落

みどうたにいせき

⑤ 御堂谷遺跡 (大田市鳥井町・長久町)

一般国道9号(大田静間道路)建設に伴い、7月から発掘調査を行っています。標高約46～56mの丘陵上に立地します。これまでの調査で造り付け竈を持つ古代の竪穴住居や炭窯、弥生時代の竪穴住居や溝が見つかっています。

また、奈良時代から平安時代の須恵器や弥生土器などが大量に出土しています。須恵器の中には、灯明皿や朱の付着した皿などの、仏教とのかかわりを示す遺物も出土しています。今後隣接する尾ノ上遺跡や弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡である鳥井南遺跡との関係なども含めて、弥生時代の生活の様子を明らかにしていきます。



古代の竪穴住居



作業風景



弥生時代の竪穴住居

出雲平野の大規模集落

たかはまいちいせき

⑥ 高浜I遺跡 (出雲市里方町)

県道矢尾今市線建設に伴い5月から8月にかけて発掘調査を行いました。この遺跡では、これまでに2回の発掘調査が行われ、中世の館跡や屋敷地が見つかり、大規模な集落が存在していたことがわかっています。とくに館跡からは日本最古の将棋盤が出土しています。今回の調査地は、集落の周辺部分に当たり、明確な建物跡は見つかっていませんが、中世の自然河道や近世の木棺墓などを確認しました。木棺墓は木の板を組み合わせた構造で、床に棒が6本並べられていました。出雲平野の中世から近世の様子がわかる貴重な遺跡です。



調査区全景



調査風景

★まいぶん普及活用事業

●いにしえ倶楽部 連続講座「しまねの発掘最新情報」



5月21日 埋文センターにて開催

今回の「いにしえ倶楽部連続講座」では、昨年度の発掘調査から3遺跡をとりあげ、発掘調査成果の概要や遺跡の価値などを解説しました。参加者の皆様には遺跡からの出土遺物をまじかに見学いただきました。

●いにしえ倶楽部「きみも卑弥呼の鏡を作ろう!」



8月18日 埋文センターでの実施状況

夏休みの小学生と保護者を対象にミニチュア金属鏡を作るいにしえ倶楽部を開催しました。参加者は三角縁神獣鏡をモデルにした小型の金属鏡を懸命に磨き上げ、顔が映るほどピカピカの鏡を完成させました。しまね Super 大使の吉田くんも登場し、にぎやかなイベントとなりました。

刊行案内

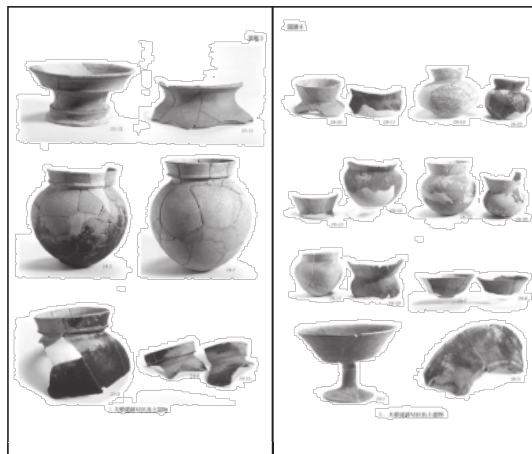
島根県古代文化センター調査研究報告 53
意宇平野の集落遺跡
島根県教育庁埋蔵文化財センター所蔵資料
再整理事業報告書 I

●最新刊です!

平成24年度から28年度にかけて当センターが松江市内で行った松江市の意宇平野に所在する集落遺跡からの出土遺物の再整理事業の成果をまとめた報告書です。

今回の再整理事業により改めて明らかにされた出雲国府成立以前の意宇平野の様相がまとめられています。

県内の図書館や文化財関係施設等に配布しました。



一度は行ってみたい島根の遺跡

島根県指定史跡 堀部第1遺跡（松江市鹿島町北構武）

堀部第1遺跡は、平成8～11（1996～1999）年の発掘調査で、「長者の墓」と呼ばれる直径約50メートルの丘を取り囲むように弥生時代前期の配石墓57基と壺棺1基が発見されました。これらの墓は島根半島に進出した集団の墓地と考えられ、当時の社会を解明するうえで貴重な遺跡として県の史跡に指定されました。

墓の上面やその付近からは供えられていた土器（壺、鉢、甕）が出土しており、その他石鍬や土笛も出土しました。これらの出土遺物は、近くにある松江市鹿島歴史民俗資料館で展示されています。遺跡周辺は公園として整備されており、隣接する堀部古墳群（松江市指定文化財）とともに保存・活用されています。



調査時の様子



木棺をもつ標石墓

写真提供：松江市まちづくり文化財課



島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキッ土器
まいぶん

No. 62

発行：平成29年11月

編集・発行

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 松江市打出町33

TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025

E-mail: maibun@pref.shimane.lg.jp

<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

